

約 束 ご と

今年も豊作が予想されている。国民活動の源泉である主食の米が、2年続きの豊作ということは、心なごむ思いである。農作物の出来具合は、天候が大きく影響するが、今年の稲作も高い技術水準に支えられての結果であろうが、大きくは天候に恵まれてのものであろう。

農薬は元来、植物保護剤という概念が大きい。作物の不作・凶作を和らげるために、農薬がその一役を担っている。これからの農薬も、病虫害・雑草害からの保護、悪天候からの保護まで、幅広く植物保護剤として利用されるであろうが、最近の植物生長調節剤の大きな研究ターゲットである増収剤の開発は、植物保護の概念から一歩進んで、作物の特性や活力を十二分に発揮させる、より積極的な意味合いが強い。

一方、世の中の諸行為には、必ず約束ごとがともなっている。それは事柄により、ハードであったり、ルーズであったりはするが、約束ごとを守らないときに、トラブルが生ずる。ときには、予期せぬトラブルもあるが、その対策として新たな約束ごとが追加される。農薬の場合も、約束ごとを守るための努力、啓蒙が今後いっそう大切になろう。新しい技術により、新しい特性を備えた農薬が開発されれば、またそれに付随して、新しい約束ごとが必要とされることもあろう。新農薬の開発と並行して、新しい約束ごとをつくるための試験研究も重視されねばならない。新しい技術が世に役立つための地味な努力も、われわれに課せられた、大きな課題である。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
日本農薬株式会社 常務取締役 渋谷正弘〕

目 次

(第19巻第9号)

中国のフィルムマルチ栽培管見……………2

＜みかど加工株式会社 石本幹人＞

1. は じ め に……………2

2. 何故中国でフィルムマルチ栽培が急速に展開したのか……………3

3. フィルムマルチが中国農業に同
化定着して行く上での問題点……………4

4. 中国で生まれた新しいマルチ栽培……………6

オウトウのわい化栽培について……………7

＜山形県園芸試験場 松田省吾＞

1. は じ め に……………7

2. わい化栽培への期待……………8

3. わい性台木によるわい化栽培……………8

4. 根域制限によるわい化栽培……………10

5. 植物調節剤を利用したわい化栽培……………11

6. お わ り に……………12

群馬県におけるコンニャク栽培と雑
草防除……………12

＜群馬農試こんにゃく分場 内田秀司＞

ミゴズル騒動記——ホタルイ考——……………15

＜山形県新庄普及所 藤橋嘉一郎＞

世界の農耕地雑草とその調査研究(8)
——タヌキモ科——……………19

＜宇都宮大学 竹松哲男・一前宣正＞

昭和59年度晩柑類関係除草剤・生育
調節剤試験成績概要……………22